

もしも今、災害が起こったら 誰が大切な人を守りますか？

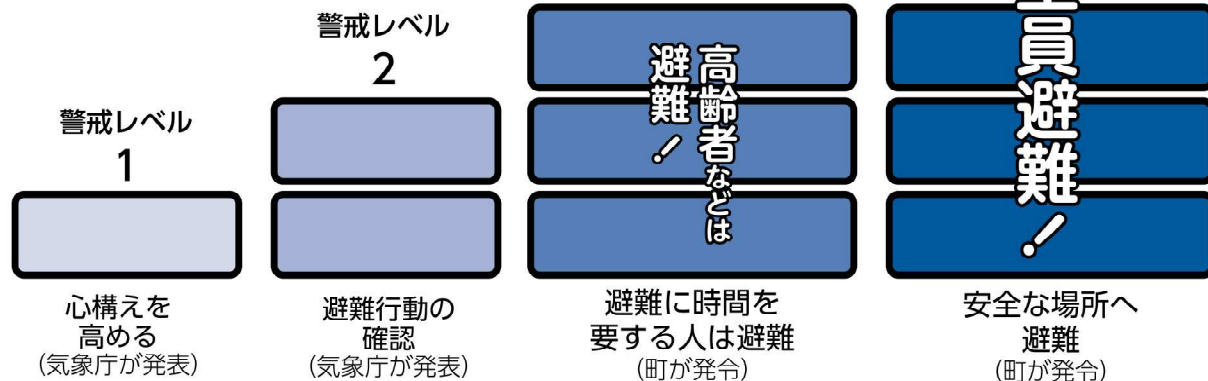
あのとき、こうしておけば、こんなことにはならなかった…
起きてから、どんなに後悔しても遅いのです。

もし突然、この瞬間、災害が起こったら、
あなたは自分の身をどうやって守りますか？
そして、大切な人を守ることができますか？

(令和2年7月12日の大雨による橋ノ下地区の内水氾濫のようす)

[警戒レベル]で避難のタイミングをお伝えします。

[警戒レベル]を用いた
避難情報が発令されます。
町から [警戒レベル 3・4] が
発令された地域にお住まいの人は、
速やかに避難してください。



[警戒レベル 5] (町が発令) は **既に災害が発生している状況** です。

避難情報入手

避難準備や勧告、防災情報などは、防災行政無線やテレビ・ラジオといったマスメディア、インターネットなどを通じて伝えられます。

携帯電話でも情報を入手可能です。「ほっとスルメール」を利用して防災・災害などの情報をお届けします。

➔ 「ほっとスルメール」で検索 (<https://anshin.city.hachinohe.aomori.jp/anshinPub/>) または右の QR コードから

命を守るために
情報の収集に努めましょう



ほっとスルメール QR コード

三戸町防災マップを活用し、とるべき行動を確認！

平時に確認

「自らの命は自ら守る」意識を持ち、
自宅の災害リスクととるべき行動を
確認しましょう。

ハザードマップや▶
避難所などの情報
を示した防災マップ
(令和2年3月発行)



防災マップで自分の家がどこにあるか確認し、
印をつけましょう。

はい

自宅がある場所に色が塗られていますか？

いいえ

色が塗られていなくても、周りと比べて低い
土地や崖のそばなどにお住まいの方は、避難
情報を参考にして状況に応じて避難してくだ
さい。

はい

災害の危険があるので、原則として、
自宅の外に避難が必要です。

例外

◆浸水の危険があっても、
①洪水により家屋が倒壊または崩落してしまう
おそれの高い区域の外側である
②浸水する深さよりも高いところにいる
③浸水しても水が引くまで我慢できる、水・食
糧などの備えが十分にある場合は自宅に留ま
り安全確保することも可能です。

ご自身または一緒に避難する人は避難に
時間がかかりますか？

はい

いいえ

安全な場所に住んでいて身を寄せられる
親戚や知人はいますか？

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚
や知人はいますか？

はい

いいえ

はい

いいえ

警戒レベル③が出
たら、安全な親戚や
知人宅に避難しま
しょう（日頃から相談
しておきましょう）

警戒レベル③が出
たら、指定避難所に
避難しましょう

警戒レベル④が出
たら、安全な親戚や
知人宅に避難しま
しょう（日頃から相談
しておきましょう）

警戒レベル④が出
たら、指定避難所に
避難しましょう

避難の心得

①大雨・洪水時の避難の心得

- ・雨が降り出したら、気象情報と河川情報に注意する
- ・むやみに外に出ず、川や海、山や崖の近くなど危険な場所に近寄らない
- ・避難情報が出たら、速やかに避難する
- ・高齢者・体の不自由な人がいたら早めに避難する
- ・避難の際は、履き物や足元に注意する
- ・避難の際は、水の深さに注意する
- ・避難が難しい場合は、自宅や近くの建物の2階より上へ移動する

②台風時の避難の心得

- ・台風情報をこまめに確認する
 - ・飛ばされそうな物は、自宅の中に入れるか、固定する
 - ・暴風で物が飛んでくる危険があるため、屋外での活動は避ける
 - ・外にいるときは、近くの建物の中に避難する
- ※ 台風ときには、大雨・洪水の避難の心得も大事です。

自分と家族の

命を守るために



三戸町ふるさと応援大使
越後 英 さん

航空自衛隊入間航空基地飛行点検隊
(元ブルーインパルス飛行班長)

三戸町の皆さん、こんにちは。連日の猛暑とコロナ禍で心身ともにストレスが溜まっている中、自然災害による被害が全国各地で発生したニュースを、ことしも数多く目にしていただいています。

「これまでこの辺で被害がなかったことがないから大丈夫」などといった、経験則が通用しないのが近年の自然災害の大きな特徴で、気象ニュースでも「数十年に一度の大雨」といった表現が頻繁に使われるようになってきています。

個人の方で災害の発生を防ぐこと（防災）は難しい

事ではありますが、私たち自身ができる「簡単な準備」で、被害の程度を小さくすること（減災）は可能だと思えます。

その一つである「防災マップ（ハザードマップ）」と避難所の確認は、時間もお金も必要ありません。スマホなどを使って三戸町のホームページで確認したり、役場の総務課 防災危機管理室に電話で問い合わせると教えてくれます。

故郷三戸町で大きな災害が起きることは考えたくありませんが、自然災害は何処で発生しても不思議ではない時代になってきました。「自分の身は自分で守る」のが災害発生時の大原則です。自分たちの住んでいる地域を今一度良く知るためにも、防災マップを確認しつつ避難所までの道のりを、ご家庭で確認してみてくださいいかがでしょうか。

非常時持出品の準備 & チェック

いざというとき、必要なものをすぐに持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。また、公的支援物資がすぐに届かない可能性がありますので、備蓄品の準備も必要です。

非常時持出品・例

- 救急医療薬品
 - 常備薬
 - 傷薬
 - 風邪薬
 - 消毒薬
 - 絆創膏
 - 包帯
 - 胃腸薬
- 貴重品
 - 現金
 - 印鑑
 - 権利証書
 - 預貯金通帳
 - 運転免許証
 - 健康保険証
- 懐中電灯
 - 懐中電灯
 - 電池
- 非常食品など
 - 飲料水
 - 離乳食
 - 非常用食品
 - 粉ミルク
- 携帯ラジオ
 - ラジオ
 - 電池
- その他
 - 衣類（下着・上着など）
 - 生理用品
 - 紙おむつ
 - 万能ナイフ・ハサミ
 - 紙皿・紙コップ
 - マスク・軍手
 - 保温シート
 - ウェットティッシュ
 - ライター・マッチ
 - ヘルメット・防災ずきん
 - ラップフィルム・アルミホイル
 - 防災マップ
 - タオル
 - ポリ袋
 - 雨具

非常時用備蓄品・例

- 飲料水
 - 飲料水としてペットボトルや缶入りのミネラルウォーター（1人1日3ℓを目安）または貯水した防水タンクなど
- 非常食品
 - お米
 - 缶詰・レトルト食品
 - 梅干し・調味料など
 - ドライフーズ・菓子類など
- 燃料
 - 卓上コンロ
 - ガスボンベ
 - 固形燃料
- その他
 - 生活に欠かせないもの

※ないと困るものを確認しましょう

地域の **安 全** を守るために

地域を守る消防団

自分たちの町だから、自分たちの手で守りたい

消防団員は、それぞれの仕事を持ちながら、火災や大規模災害発生時に現場へ駆けつけ、消火・救助活動を行う、非常勤特別職の地方公務員です。平常時は、訓練、防火啓発活動、防火指導などを行います。消防団員は地域に密着し、住民の安心と安全を守る重要な役割を担います。

消防団は、地域防災の要



三戸町消防団
ももさわ としあき
百沢 俊昭 団長

火災は、個人で予防することもできませんが、いつ起こるか分からない自然災害の場合は、難しい。皆が危機感を持って過ごさないとけません。消防団は「自分たちの地域は、自分たちで守る」という強い意志を持ち、有事の際は現場に駆けつけます。団員たちの日ごろの活動には、心強いと感ずるとともに感謝しております。近年、団員の数は減少傾向にあります。しかし、地域の防災力を低下させるわけにはいきません。今後も、団員一人ひとりの技術の向上を図り、地域の防災力の向上に努めていきたいと思えます。

消 防 団 員 募 集

団員は随時募集しています。性別を問わず、18歳以上で三戸町に居住または勤務している人ならだれでも加入できます。さまざまな人が集まって地域の防災のために活動しています。



三戸町消防団員
ささき だいぢ
佐々木 大地 さん
(令和2年4月1日入団)

安全・安心なまちづくりのために、あなたの力が必要です。三戸町を守るため、ぜひ消防団に入り、活動に参加してください。「もしも」の時のために、仕事と両立しながら参加できるのが消防団です。

地域のことをよく知っているあなただからこそ、できることがあります。

入団を希望する人は、
三戸町役場 総務課 防災危機管理班
☎ 20-1119 までご連絡ください。